

備前市ゆかりの現代の文化人

【文学】

○小手鞠るい（1956年～）

小説家、詩人

伊部出身・アメリカ在住

伊部小学校へ通っていた頃から、作文と読書が大好きで、将来は作家になりたいとあこがれていました。20代の頃から、やなせたかしが編集長を務めていた雑誌「詩とメルヘン」に詩の投稿を続け、サンリオ「詩とメルヘン賞」を受賞。その後『海燕』新人文学賞、島清恋愛文学賞、小学館児童出版文化賞などを受賞。近作として、戦前・戦中・戦後の備前市や岡山市を舞台に描いた岡山3部作『お母ちゃんの鬼退治』『川滝少年のスケッチブック』『つい昨日のできごと』―父の昭和スケッチブック』が話題を呼んでいます。



【音楽】

○岡 千秋（1950年～）

作曲家。日生町鴻島出身

【びぜん特別観光大使】

代表作に「浪花恋しぐれ」「長良川艶歌」など。

中学卒業後、歌手を目指し大阪で就職、働きながら



歌謡教室に通い、作曲家の道へ。

マッシュルームカットと髭がトレードマーク。低いダミ声の特徴。故郷である日生町の加子浦歴史文化館には、岡千秋の資料の展示コーナーがあります。

○榎本大進（1979年～）

ヴァイオリニスト

ロンドン生まれ

祖父が日生町出身

ドイツ在住、1994年第3回ケルン国際ヴァイオリンコンクールで第1位、1996年フリッツ・クライスラー国際コンクール第1位、ロンドンティボー国際コンクールでも史上最年少で第1位を獲得など、5つの権威ある国際コンクールに優勝。



©Keita Osada (Ossa Mondo A&D)

2007年からは、自身が音楽監督となり兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ポン（Le Pont）」を開始。

2010年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターとして活躍中です。

○友光雅司（1979年～）

ピアニスト

大内出身

6歳よりピアノを始め、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業後、オランダへ渡り、2006年ロツテルダム音楽院大学院修了。



NHK岡山放送局長賞、指揮者賞、岡山県知事賞、遠山賞受賞。2003年イタリアサンジェミニ国際ピアノコンクールでグランプリ受賞。

ソロリサイトを中心に国内外で演奏活動を行っています。

○藪井佑介（1986年～）

5次元キーボード

&最先端電子楽器奏者／作曲家

岡山市出身

父が日生町出身

世界初、5次元キー

ボードなど10台以上の最先端電子楽器を全身で弾きこなし、〈和〉の要素を加えた壮大なオーケストラサウンドを奏でる次世代アーティスト。2020年旧閑谷学校創学350年記念事業にて記念コンサート開催。作曲・演奏両面で国内外での受賞多数。

・2004年「ヤマハジュニアエレクトーンコンクール全国大会」グランプリ

・2020年作曲コンテスト「サウンドクリエイター・オブ・ザ・イヤー」グランプリ

・2022年エンターテイメントの国際コンテスト「LIT Talent Awards（米国）」プラチナ賞・金賞

・2023年「第24回岡山芸術文化賞」準グランプリ

